

無量光山妙君寺だより 永代経会号

こころの陽だまり

平成二十七年 四月 第七十一号

TEL 〇五八六・八六・五〇五四

◆ 住職つれづれ ◆

妙君寺第四世 加藤雄燈

春の兆しを感じられる季節になりました。昨年十一月九日に第四世住職の法燈を継承し、早五か月が過ぎようとしています。

本年二月五日には住職として初めて「星まつり大祈禱会」を奉行させていただきました。多くの皆様に参詣していただける事と、行事のお手伝いをして頂ける方々への感謝の気持ちを一層強くなりました。

日々、ご相談を通し供養、祈禱に全身全霊を傾け、皆様の幸福を祈り、共に正しい信仰の道を切り開いてまいります。檀信徒の方とお寺との「信仰の絆」を守っていく事を責務とし励んでまいります所存です。

合掌

「心のエネルギー」

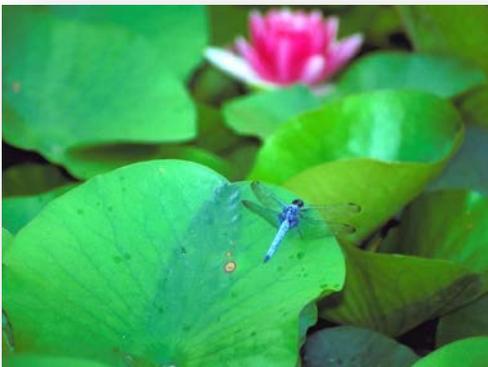
先日、私の大学時代の心理学部の恩師 菅野純教授が退職されることとなり、最終講義を聴聞してまいりました。先生は「心のエネルギー」という言葉をよく使います。私たちは、誰でも周りの人と仲良くしたい、平穩に過ごしたいと望んでいます。

しかし、現実はその上手くいきません。「自分は、うまくいっている」という人も、周りを見渡せば上手く振る舞えず苦しんでいる人がいることでしょう。心が満たされてこそ、人は正しい判断や、他人を思いやる、和を保つことができるかと先生は仰っていました。

子供は、ただ自分の成長を祈り、その存在を喜んでくれるという親からの無条件の愛情を受け「心のエネルギー」を養い、未知の世界へ向かっていきます。成長を見守ってくれる人の存在は、安心と自信を与えてくれます。

しかし、大人になると成長を見守ってくれる人が少なくなります。

それ故「心のエネルギー」が枯渇し、心の不調をきたしてしまう事が多いのです。



お釈迦様は

「衆生は（ごとごとく）これ我が子なり」

（生きている全てのものは、みな私の子供です）とお経の中で仰つています。

お釈迦様は、慈悲の心で私たちの魂の成長を望み、智慧（ちえ）を授けてくださるのです。

私たちが生きていくには、「心の支え」が必要です。お釈迦様の無量の思いやりにより身をゆだね、自分の心の成長を喜び合うことは、心の平安を得る鍵です。

仏様やご先祖様に皆が手を合わせる家庭が平穏で家内和合していくのはその為です。

信仰をするのに遅い早いはありません。今から始めましょう。七月五日（日曜日）には総本山身延山への参拝を計画しております。共に信心を深めるお参りに出かけましょう。詳細は下記。



日蓮大聖人御廟

妙君寺主催

身延山参拝 日帰りバス旅行のご案内

日程：平成二十七年 七月五日（日曜）

朝六時半 妙君寺出発。

夜七半時頃 妙君寺到着予定。

参加費：一万二千元（参拝費用・昼食含む）

定員 四十名

日蓮宗の総本山身延山に参拝し、特別開帳を含め諸堂をめぐる予定です。道中を通し信仰のお話をしていきます。

日蓮大聖人の魂の宿る山です。感動と共に信仰に触れる貴重な機会です。ご一緒に信仰を深める旅に出かけましょう。

ご家族、ご友人どなたでもご参加いただけます。

〇行衣・御朱印帳をお持ちの方はご持参ください。雨具、歩きやすい靴。（徒歩での移動は平坦な道です）

※当日の朝は、午前六時半の出発に

間に合うよう妙君寺にご集合ください。

申し込みの方はお寺へご連絡ください

0586・86・5054



身延山本堂



いんじゅ
院首のひとこと

妙君寺院首 加藤燈遠

長かった寒い冬も遠のき、春の息吹を感じるこの頃です。木々の幹や枝には花のつぼみや葉の芽が顔を出し、大自然のなりゆきとはいえ尊い自然の営みに有難さを感じます。一年前は、入院生活でしたが、現在は日常生活の中で、仏様に毎日のご給仕をさせて頂けるようになりました。

振り返ると四十代・五十代には毎日、信者様の相談に応じ冬には水をかぶり読経に励んでいました。縁が縁を結び約三十年は最も忙しい時期でした。この頃、妙君寺の基礎ができ、本堂・庫裡・鐘楼堂・山門を建立することができました。六十歳に入った頃より徐々に体調に異変が開始しましたが、この頃には現住職の雄燈が七年間の修行を終え、七年間の法務を経て皆様に応対出来るようになりました。

又、僧侶としての資質を高める為の勉強の意欲も旺盛に取り組んでいます。この様に恵まれた環境の中、毎日のご給仕を欠かさず信仰を深めてまいります。

どんな仕事でも一生懸命に打ち込めば、人としての資質も高まり徳を積むことができます。家族中の皆が日々感謝と前向きさを大切に過ごしてまいります。檀信徒の皆様の一層のご健勝をお祈り申し上げます。

再拝



◆ 毎日のお参りの仕方 ◆

毎朝、お寺ではお経をあげます。仏様諸天にお香、お水を供えお経をあげご給仕しています。

檀信徒の皆さんの日々の安穩、各家のご先祖の回向を言上し、世界平和、立正安国(仏法に基づく平和な社会)の祈りを行うのが朝のお勤めです。

ご自宅でも、お仏壇やお位牌、お写真の前で、仏様とご先祖に朝夕ご給仕しましょう。お水やご飯を供え、共に日々過ごす気持ちで手を合わせます。

春夏秋冬、一年を通じてお寺では行事が行われます。どの法要も供養、祈願と大切なものばかりです。

平日に重なることもありますがお申込みいただいた供養、祈願等は責任を持って執り行いますので、お申込みご参詣ください。

四月二十九日（祝日）

永代経・施餓鬼会

午後一時より 厳修

そとうば
卒塔婆にご先祖様の戒名を記し

多くの僧侶出座のもと、皆様と共に報恩供養の志を捧げる行事です。ご先祖様に感謝の気持ちと供養を捧げましょう。

※同封の別紙に戒名(法号)をお書きになり、お申し込みください。事前申し込みの順番で供養を行います。

※当日参詣できない方も、法要にて塔婆供養致しますので、お申込み下さい。

・永代供養入り霊位への供養は、法要の最初に行います。

「永代供養入り」＝当山の過去帳に戒名を記載し、永代に亘り朝勤において読み上げ供養する事です。詳しくはお寺にお聞き下さい。



平成二十七年 年回忌表

年回忌	亡くなられた年
一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
三十七回忌	昭和五十四年
四十三回忌	昭和四十八年
四十七回忌	昭和四十四年
五十回忌	昭和四十一年

ご法事を営まれる方は、お寺までご連絡下さい。
一年を通じ仏祖 へご先祖様に報恩の念を持って過ごしましう。

◆毎月 第四土曜日の午後七時半からは、**量信会**（お経とお話の会）を行っております。（日程変更の場合は、当山ホームページにお知らせしますのでご確認ください）

※本誌 ②ページ目に、妙君寺主催 身延山参拝の旅の案内。